

なると環境スクール活動報告書

学校（園）名		鳴門市撫養幼稚園		
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○取組等の掲示・保護者への周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動方針等を玄関に掲示し、意識の高揚を図った。</li> <li>テーマ 「環境にやさしい幼稚園づくりをします」 「自然環境に関心を持ち、感性を育てる取り組みをしています」</li> </ul>	通年	保護者 全園児 職員	
○遊びの中で	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材(紙・箱・カップなど)を使用可能な限り再利用した。それぞれを大きさや種類別に分け、収納場所を明示した。</li> <li>・ゴミの分別を徹底する。よくわかるように文字やイラストで表示した。</li> <li>・手洗い場・電気のスイッチの場所に、節水・節電の表示をした。</li> <li>・砂場遊びの水を花壇の水やりに利用した。</li> <li>・自然物を遊びの中でも積極的に利用し、自然が身近にある豊かさや、自然のすばらしさ、尊さを感じられるようにした。</li> </ul>	通年	全園児 職員	
○節電	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房の使用については、気温や幼児の体調に配慮しながら、必要な時に使用するようにした。</li> <li>・必要のない照明のスイッチをこまめに切り、節電に努めた。</li> </ul>	通年	職員 全園児	
○節水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内・室外の水道の蛇口の確認を施行した。</li> </ul>	通年	職員	
○草ぬき・落ち葉集め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の草ぬき・落ち葉を集めて、遊びに利用した。</li> </ul>	秋	全園児	
○栽培活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節の野菜(タマネギ・ジャガイモ・トマト・きゅうり・なす・オクラ・枝豆・など)づくりをして、自然の恵みに感謝の気持ちをもつとともに、自然への興味・関心を育てた。</li> <li>・収穫したものをわけて持ち帰り、食してもらうことで、家庭でも話題にあげられるようにした。また、園で調理してみんなで食べることで、</li> </ul>	通年	職員 全園児 保護者	

<p>○親子オリエンテ ーリング</p> <p>○プルタブ収集</p> <p>○ペットボトルキ ャップ収集</p>	<p>より意識を高められるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一鉢で、花・野菜(アサガオ・ミニトマト・ラディッシュ・チューリップ・ビオラ)を植え育てた。</li> <li>・ゴーヤを育て、窓辺に緑のカーテンを作り、日光照射を和らげた。</li> <li>・自然物(木の実・落ち葉・花びら等)を拾って、遊び・製作に利用した。</li> <li>・親子で地域を巡り、人や自然とふれあいながら、地域のよさや親しみを感じたり、地域美化への意識をもてるようにした。</li> <li>・保護者・地域の方の協力を得て、プルタブを集めた。</li> <li>・保護者・地域の方の協力を得て、ペットボトルキャップを集めた。集まったキャップは、ワクチンを届ける支援としてトヨタへ持参した。</li> </ul>	<p>7・8月 通年</p> <p>11月</p> <p>通年</p>	<p>全園児 職員</p> <p>全園児 保護者</p> <p>全園児 保護者 職員 地 域 の 方</p>	
---	---	---	--	--

### 成 果

- 昨年度の成果・反省をもとに、職員・全園児・保護者全員で活動に取り組んでいる。年長児になると、不要な電気のスイッチを切ったり、必要な水の量を考えて使ったり、遊びに使った水を植物の水やりに再利用するなど、生活の中で、『もったいない』『大事に使う』という意識をもち活動する姿が見られている。年少児も、素材の使い方やごみの分別など、年長児や職員の姿を見ながら、生活や遊びの中で環境について少しずつ気づきが見られる場面も増えてきた。
- 実践活動をとおして、職員や保護者が節電や節水・環境について話題に出す機会が増え、子どもたちにも身近な話題となっている。大人の意識の高まりや、生活や遊びの中での積極的な働きかけが子どもの意識形成にもつながっている。

### 次期計画への課題・問題点

- 一人ひとりの意識が成果につながると思うので、まず教師が取組への課題意識を常にもち、表示・掲示の工夫をすることで、子どもたちにも習慣づけられるような指導をしていきたい。また積み重ねが大事だと考えられるため、繰り返し伝えていくことも心がけていきたい。
- 保護者や地域の方々に協力をいただいているプルタブ収集・ペットボトルキャップ収集では、各家庭で貯まった分を各自園に持参する方法が定着している。今後も継続し、目標につながるような働きかけを工夫したい。
- 子どもに親しみやすい教材を積極的に取り入れたり、その時の状況に応じた環境構成や言葉がけに工夫をしたりしながら、子どもたちとともに環境を意識した生活について考えられるようにしていきたい。

## 平成29年度 実施状況報告書

### ○ 節電・節水（通年）

- ・ 戸外活動時など、必要のない時は、室内やトイレ、廊下等の電気を消す習慣がつくよう、教師が言葉がけをし、確認を忘れないようにした。
- ・ 冷暖房の使用については、気温と幼児の体調に配慮しながら、必要な時に使用するようにするとともに、冷暖房に頼りすぎず、自然の中での生活ができるよう、夏は木陰で遊んだり、パラソルを使用したり、冬はリレーやマラソン、ドッジボールやなわとびをするなど、日々の保育を考えた。
- ・ 手洗いやうがい、水遊び等、必要なだけ水を出せるよう、子どもたちが気づいていけるように、また、子どもたちどうしても知らせ合えるように繰り返し指導をした。
- ・ 砂場遊びや水遊び等の残りの水を花の水やりを使用した。



### ○ 野菜の栽培（5月～8月・9月～12月）

- ・ 一人一鉢で、野菜（ミニトマト・ラディッシュ）を育てた。菜園畑では、タマネギ・ジャガイモ・キュウリ・ナス・ピーマン・オクラ・枝豆・等の野菜を植えて育てた。収穫したものをわけて持ち帰り、家庭でも食べてもらうことで、家庭でも話題にあげられるようにした。また、園で調理し、みんなで食べることでより意識を高められるようにした。
- ・ ゴーヤを栽培し、つるを利用して窓辺に緑のカーテンを作り、日光照射を和らげた。



### ○ 落ち葉集め

- ・ 園庭の落ち葉（サクラ・イチョウ等）を園児と一緒に集めて、遊びに利用した。



○ 飼育動物の世話（通年）

- ・ ダンゴムシ・アゲハチョウ・メダカ・カタツムリ・スズムシ・カメなどの生き物を飼育して世話をした。生き物について図鑑などで調べ、エサをやったり、住みやすい環境を整えて世話をしたりすることで、自然や生き物と一緒に生活していることや命について考えることができた。

○ 広告・牛乳パック等の素材収集と再利用（通年）

- ・ 家庭に協力していただき、広告紙や牛乳パック、空き箱や包装紙、カップ等を収集し、教材として使用した。まだ使えるものは再利用することが定着してきている。



○ プルタブ・ペットボトルキャップの収集（通年）

- ・ 新学期に、牛乳パックを再利用した収集箱を配布して、各家庭に収集を依頼した。集めて届けてくださる保護者や地域の方の協力も多く、定着している。集まったプルタブは車椅子を、ペットボトルキャップはポリオワクチンを届ける支援につながる。



## なると環境スクール活動報告書

学校(園)名		鳴門市精華幼稚園		
活動実績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○活動方針の説明	○各クラスにおいて取り組み(活動方針)について説明を行った。	4月	園児	
○取り組み等の掲示	○活動テーマ等を玄関・廊下に掲示した。	4月	PTA 会員	
○園内外の環境把握 (遊びの中で)	○素材(空き箱, 空容器, 用紙等)を集め, 保育に活用した。 ・園全体で収納する場所を決め, 大きさや種類等に分けて園児が使いやすいようにした。また, 各クラスでも, クラスの実態に合わせ, 表示の仕方や置き場所などを工夫し, 園児が使いやすい片付けやすい環境を整えることを心がけてきた。 ○ゴミの分別の徹底 ・ゴミ箱の分別表示を詳しく示した。 ○エコキャップ運動 ・玄関にパネルやキャップを入れる箱を設置し協力を呼びかけた。 ○手洗い場・電気スイッチの場所に節水・節電の表示をし, 意識化に努めた。 ○休業日前には戸外の水道の元栓を閉めるようにし, 漏水防止に努めた。	通年	園児 職員	
○草抜き・木の葉集め	○園庭の草抜き・落ち葉集めをして,	通年	園児 保護者 職員	
○飼育栽培活動	○季節の野菜作りをして, 自然の恵みに感謝し食物を大事にするとともに食育への興味・関心が高まるようにした。 ・玉ねぎやさつまいもを園庭の畑で栽培し収穫をした。 ・キュウリ・ナス・ピーマン・オクラ等を各保育室テラスで栽培し, 収穫の喜びを味わった。 ・一人一鉢で花や野菜を植え, 食物への興味もてるよう努めた。	通年	園児 職員	

○EM だんご投入	○環境美化に取り組む地域の方より、川や池をきれいにするために4年生と作っているEM だんごを園舎の前に流れる川に投入した。	6月	老人会 園児 職員	
○園外保育 (公園, 妙見山, 消防署 等)	○近所の公園・中学校・小学校等へ行き、自然に触れて遊び豊かな感性を養う。また、自然物(木の実・落ち葉等)を拾い、遊びや製作に活用した。	春～ 冬	園児 職員	
○節電	○使用していない保育室・職員室の照明器具や事務機器等をこまめに消し、園全体で電気使用量を減らすように努めた。	通年	園児 職員	
○節水	○水の大切さを伝えるために絵本や紙芝居、ポスター等を活用し、大切に使うことを考える機会とした。 ○手洗い、うがい、歯磨きなど、生活の具体的な場面を通して、必要のない時には一旦水を止めるなど、水の使い方について指導した。 休業日前には、水道の元栓を確認した。	通年	園児 職員	

### 成 果

- 空き箱や空容器などの素材を分かりやすく分別したことから、園児自身が自分で素材を選び、遊びに使う姿が見られるようになってきている。また、家庭できれいに洗ったペットボトルや牛乳パックなどを集めてたくさん持ってきてくれている。保護者の方も再利用しようと協力的になってきている。
- 地域の老人会の方が9～10年前より、園舎の前に流れている川の汚染防止のためにEM だんごを作ってくださっている。そのEM だんごを園児たちが自分たちで投入することにより、川をきれいに保とうとする意識が芽生えたように思う。EM だんごを投入したことにより、戸外遊びをする前に川をのぞき、「ペットボトルが流れているね。どこから流れてきたんだろう?」「今日は魚が泳いでいるね。」と川の状態を気にする姿が見られるようになってきている。
- エコキャップ運動も今年で7年目となり、定着している。地域の方の協力もあり、登園時に親子でキャップを入れている姿が多く見られ、各家庭においてできることから取り組むことができるようになってきている。
- 園児・保護者・職員全員の節電・節水への意識が高まり、必要に応じた使用が定着しつつある。

### 次期計画への課題・問題点

- 職員の意識が幼児一人ひとりの意識につながるということを実感している。今後も職員が率先し、節電や節水等への意識を強くもって行動に移していきたい。また、園舎内外の環境を把握して、表示・掲示等の工夫をしたり、保育活動に具体的に取り入れたりして実践を進めていきたい。
- 保護者も一緒に環境について学ぶ機会を設け、親子で一緒に活動に取り組めるようにしていきたい。

## なると環境スクール活動報告書

学校（園）名		鳴門市黒崎幼稚園		
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○活動方針の説明	○職員会で活動内容・方法について説明し、各自ができることを話し合った。	5月	職員	
○使用量グラフの 掲示	○節電・節水を絵と文字で表示するとともに毎月の電気と水道使用量を明示したグラフを掲示した。	5月	全園児 職員	
○園周辺の環境観 察	○園外保育に出かけたり、避難訓練を実施したりし、園周辺の公園や神社山・海の環境について知る。 ・園周辺の公園や神社などに行き、草花・木々を観察したり、ドングリ拾いをしたりした。 ・渡船に乗って高島地区に渡り、海の様子を観察したり、地域の人々と触れ合ったりした。	5月 6月 11月	全園児	
○ごみの減量	○給食時残さず食べるように指導をし、生ごみの減量を行った。 ○廃材を利用して、工作をした。	6月	全園児	
○節電	○全員が園庭に出た時など、保育室や廊下の照明器具をこまめに消した。 ○天気の良い日にストーブはつけないようにして過ごすようにした。	11月 12月	全園児	
○緑のカーテン	○リズム室の窓に緑のカーテンのゴーヤを育て、エアコンの使用時間を減らした。幼児が水やりをし、カーテンの意義を知らながら成長を楽しみにした。	8月 通年	全園児 全園児職員	
○節水	○水道は、常に職員が見回り、漏水防止に努めた。また、職員が声をかけていくことで、幼児も歯磨きの時や手洗い時必要のないときには水道を止めるようになっている。 ○砂場の遊具を洗った後の水を野菜や花の水やりに使うようにした。	通年 12月～ 3月 通年	全園児職員 全園児職員 全園児職員	
成 果				
○園外保育で実際に海や公園・神社など園周辺の地域散策をしたことで、身近な自然と触れ、自然の不思議さや美しさを感じることができ、「大切にしていこう。」という働きかけを受け入れるようになってきている。				
○日常的な工作遊びに廃材を利用することで、ゴミをすぐに捨てずに、使い道を考えようとする意識をもつことができた。また、遊びに自然物を使うことで身近な自然に関心が高まった。				
○教師がこまめに保育室の電気・扇風機・ストーブを消すことで、幼児たちも確認したり、電気は自ら消して外に出たりするようになっている。				
次期計画への課題・問題点				
○廃材を工作材料として遊んでいることが、保護者に周知されていない面があったので、保護者にも伝えて一緒にリユースに取り組んでいきたい。				
○手洗い場の蛇口が固く、水が最後まで止められていないことがある。教師のチェックが欠かせないが、幼児達ももしっかりと閉めることの指導を続けていきたい。				

なると環境スクール活動報告書

学校(園)名		鳴門市桑島幼稚園		
活動実績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○活動方針の説明	○各クラスにおいて取り組み(活動方針)について説明を行った。	4月	園児	
○取り組み等の周知	○活動テーマ等を園だより等で保護者に伝えた。	4月	PTA 会員	
○園内外の環境把握 (遊びの中で)	○素材(空箱, 空容器, 用紙等)を集め, 保育に活用した。 ・収納する場所を決め, 大きさ・種類等に分けて園児が使いやすいようにした。 ○ゴミの分別の徹底 ・ゴミ箱の分別表示を詳しく明示した。 ○手洗い場・電気スイッチの場所に節水・節電の表示をし意識化に努めた。 ○休業日前には戸外の水道の元栓を閉めるようにし, 漏水防止に努めた。	通年	園児 職員	
○草抜き・木の葉集め	○園庭の草抜き・落ち葉集めをして, 腐葉土を作り, 栽培に利用した。	通年	園児 保護者	
○飼育栽培活動	○季節の野菜作りをして, 自然の恵みに感謝し食物を大事にするとともに食育への興味・関心が高まるようにした。 ・玉葱やさつまいもを園庭の畑で栽培し収穫をした。 ・キュウリ・なす・ピーマン・オクラ等を各保育室テラスで栽培し, 収穫の喜びを味わった。 ・一人一鉢で, 花・野菜(アサガオ・トマト・ひまわり・コスモス等)を植え, 植物への興味をもてるよう努めた。 ・ゴーヤを育て, 室内温度を少しでも下げるように保育室の日よけとしし節電に努めた。	夏～ 秋	園児 職員	
○園外保育 (公園, 丸山, 消防署 等)	○近所の公園・丸山・小学校等へ行き, 自然に触れて遊び豊かな感性を養う。また, 自然物(木の実・落ち葉等)を拾い, 遊びや製作に使用した。	7月  春～ 冬	園児 小学生	

○節電	○親子で秋の自然を楽しみながら妙見山に登ったり、地域散策をしたりする中で、ゴミ拾い等を行った。	10月	園児 保護者 職員	
○節水	○使用していない保育室・職員室の照明器具や事務機器等をこまめに消し、園全体で電気使用量を減らすように努めた。	通年		
	○水の大切さを伝えるために絵本、紙芝居、ポスター等を活用し、大切に使うことを考える機会とした。	通年	園児 保護者	
	○手洗いうがい・歯磨きなど、生活の具体的な場面を通して、必要のない時には一旦水を止めるなど、水の使い方について指導した。 休日前には、水道の元栓を確認した。		園児 職員	

成 果

- 昨年から継続して取り組んでいる“砂場道具を洗った後の水”を園庭の樹木の水やりに再利用する習慣が年長児に定着しており、年長児が水やりを行うことで年少児にもジョウロやバケツで水やりをする姿が見られている。次年度へも引き継がれていくことが期待できる。
- 水・電気・素材等に対し、「もったいない」という意識や自然を大切にしたいという思いをもち、継続的活動ができるように、行事等を利用し、親子でエコ活動について考えたり取り組んだりできるような指導に努めた。この実践をきっかけに環境に対する意識が次第に高まってきている。
- 園児・保護者・職員の節電・節水への意識が高まり、必要に応じた使用が定着しつつある。

次期計画への課題・問題点

- 職員の意識が幼児一人ひとりの意識につながるということを実感している。今後も職員が率先し、節電や節水等への意識を強くもって行動に移していきたい。また、園舎内外の環境を把握して、表示・掲示等の工夫をしたり、保育活動に具体的に取り入れたりして実践をすすめていきたい。
- 環境学習は家庭との連携が必要である。そのために、親子で環境学習をする機会を設け、家族でより一層活動に関心をもてるように啓発していきたい。また、保育準備や活動・家庭から集まった素材の活用について子ども達と話し合い、いろいろな素材の有効な使い方を共に考える場や時間をもち、生活や遊びに取り入れることを子ども達が積極的にできる環境づくりを進めていきたい。

## なると環境スクール活動報告書

学校(園)名	鳴門市第一幼稚園			
活動実績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○活動テーマの徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員会において、職員が率先して環境問題に関心をもち、節電や節水・ゴミの分別・リサイクルを引き続き行うこと等、活動方針について確認した。</li> <li>○ 幼児にも“もったいない”の精神が定着することを願い、活動方針を日常の保育の中に取り入れて教師がモデルとなり動いたり伝えたりした。またエコやリサイクルなどに関する絵本や紙芝居などの視聴覚教材を意識的に取り入れた。(「リサイクル工作図鑑」「もったいないばあさん」「スイッチにんじゃ」など)</li> </ul>	4月	職員	
○重点目標の掲示の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の重点目標を職員室のよく見える位置に継続して掲示した。</li> </ul>	4月	職員	写真①
○園の自然環境を生かした保育の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園庭のサクラ・フジ・ビワ・ヤマモモ・フェイジョア・センダン・クスノキなどの樹木の花や実を保育に取り入れ、四季折々の草花に触れて遊ぶ体験を重ねた。</li> </ul>	通年	全園児 職員	写真②
○園外保育や散歩の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園庭や花壇の草抜き・落ち葉ひろいを朝の活動に取り入れ、幼稚園の環境を整えた。</li> </ul>	通年	全園児 職員	写真③
○園外保育や散歩の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 金比羅神社へ出かけ、秋の草花や木々を見たり、落ち葉拾いをしたりすることで自然の変化に気づいたり、身近な秋の自然を感じたりしながら歩いた。</li> </ul>	11月	全園児 職員	写真④
○資源の節約	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 色紙・画用紙などの工作用紙類の無駄をなくし、切れ端も活用した。</li> <li>○ 配付資料は両面印刷をした。裏面が利用できる用紙は再利用した。</li> </ul>	通年	職員 全園児	写真⑤
○ゴミのリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭から持ち寄った牛乳パックや空き箱、ペットボトルなどの身近な素材を使い、製作を楽しんだ。</li> </ul>	通年	全園児	
○節電	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落ち葉・花びらなどを木の根元に集めて堆肥化させ、花壇等に利用した。また、焼き芋をする時に、子どもたちが園庭の落ち葉を拾い集め、焼き芋時に活用した。</li> <li>○ スwitchに“節電”の表示を継続し、使っていない場所</li> </ul>	通年	職員	写真⑥
○節電	○ スwitchに“節電”の表示を継続し、使っていない場所	通年	全園児	

○節水	の照明をこまめに消したり玄関の照明を落としたりするなどした。また、幼児も教師の節電する姿を見ることから、自分も消してみようとする。		職員	
	○ 水道水を、出したままであがいをしたり歯磨きをしたりしないような指導や、出ていることに気づいたら誰でもがすぐに止めるという指導を続けてきた。	通年	全園児 職員	写真⑦
	○ 給食後に牛乳パックを洗う時、水の無駄なくきちんと洗えるよう、洗い方を写真で表示し、子どもたちに知らせた。	通年	全園児 職員	
	○ 砂場で遊んだ後、遊具を洗った水を園庭の花への水やりに再利用した。	通年	全園児 職員	写真⑧

### 成 果

- 今年も、「なると環境スクール」活動に園児・職員・保護者の方々全員で取り組んだ。水・電気・素材等に対し「もったいない」という意識や自然を大切にしたいという思いで取り組みを続けているが、この実践活動をきっかけに環境に対する意識がだんだんと高まってきている。
- 昨年度に引き続き、砂場遊びの後片付けで、洗い桶に残った水を花の水遣りに再利用することが習慣化できた。年長児が率先してバケツで水を花壇へ運ぶ姿が年少児へのよいモデルとなっており、また次年度へと引き継がれていくことが期待できる。
- 教材準備や活動で余った画用紙の切れ端や折り紙の切れ端など、細かい資源を大切にしたいという姿勢を示してきたことで「これはまだ使えるなあ」など、幼児なりに“もったいない”と思う気持ちや物を大切にしようという気持ちが芽生えつつある。また、形を変えて再利用しようと工夫する教師の姿が、幼児の製作の幅を広げることにつながった。
- 積極的に園外へ出かけしていく機会を設けてきたことで、家庭では体験しにくくなっている自然とのふれあいを楽しんだり、地域の良さを発見したりすることができ、身近な自然に対する愛着心が育ってきている。また園庭の豊かな自然を教材として取り入れる中で、季節の変化を感じたり、食べる喜びを味わったりすることができた。
- 園庭の大きなセンダンの木は、夏は涼しい木陰となり園児が心地よく戸外遊びをしている。冬は、職員と園児が園庭や道路の落ち葉を集め、焼き芋パーティーの時に活用している。
- 全園児と一緒に草抜きをすることにより、草と花を見分けることができるようになり、花壇の花を大切にしようとする気持ちを育むことができた。また、落ち葉ひろいをすることにより、園庭をきれいにしたいという喜びを味わい、「自分たちの幼稚園をきれいにしよう」と主体的に活動する姿が見られるようになった。

### 次期計画への課題・問題点

- 一人ひとりの意識が成果につながるということが取り組みを通して、だんだんと明らかになってきている。これからも、園舎内外の環境調査をして、表示・掲示等の工夫をしたり、保育活動に具体的に取り入れたりと実践していきたい。
- ゴミを出す際、出す袋の数が多くなりがちであったので、教職員で協力しながら、適切なゴミの分類とゴミの減量化に努めていきたい。また園外へ出かけの際は「来た時よりも美しく」を合い言葉に、教職員が率先してゴミを拾うなど地域社会での活動も広げていきたい。
- 環境学習は家庭生活・地域住民とも大きなかかわりがある。そのため、家庭教育学級での環境学習も必要と思われるので、親子で学習したり地域で働きかけたりして学ぶ機会を設けていきたい。



① 『もったいないばあさん』の絵本を見る幼児たち。自分たちの生活に照らし合わせながら、エコについて考えました。



② 木の実や枝、落ち葉など、秋の自然物を使いケーキ作りをしています。『誕生日ケーキ』や『うさぎのケーキ』などと幼児たちはイメージを膨らませながら作っています。



③ 熊手やちりとりを使って掃除をする幼児たち。葉っぱの数を数えたり、色の変化に気づいたりしながら、園庭をきれいにする喜びを感じています。



④ 園外保育では金毘羅神社に出かけ、身近な秋の自然を体いっぱいに感じました。神社ではドングリを拾い、持ち帰って遊びに取り入れました。



⑤ 壁面環境で使用した画用紙の端切れなどを製作遊びに利用しました。作りたいものに合わせて色や大きさを選び、遊ぶものや友達へのプレゼントを作ることに使っています。



⑥ 落ち葉ひろいで集めた落ち葉を、やきいもに使うために貯めておきました。力を合わせて運んでいます。



⑦ 必要な分だけ水を出して、手洗いやうがい、歯磨きをする幼児たち。出しっ放しになっているのを見つけたら、「もったいない」とすぐに止めに行く姿が見られるようになってきました。



⑧ 砂場の道具を桶に溜めた水で洗った後、残った水をバケツで花壇に運ぶ幼児たち。桶に残った砂も丁寧に手で取り、砂場に戻します。

なると環境スクール活動報告書

学校（園）名		鳴門市里浦幼稚園		
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○ 園周辺の環境観察	○園外保育を通して草花・虫等の自然の様子を観察し、自然を大切にする心を育てた。	4月	全園児	保護者の協力
○ 園庭でのサツマイモ・ダイコンの栽培活動	○年間を通して、緑あふれる環境づくりに努め、保護者の協力を得て、サツマイモやダイコンの栽培種をした。また、収穫を家庭で持ち帰り、家族で収穫した喜びを伝えたり、自分たちで育てた野菜を味わったりした。	5~2月	全園児 職員	
○ ゴミのリサイクル	○焼きいもパーティーの後の灰を畑に返し肥料として活用した。 ○ゴーヤの苗をいただき緑のカーテン事業に参加し、暑さ対策で努めた。	夏	職員 職員	
○ 節電	○ ゴミの分別とリサイクルに努めた。 ○ダンボール・ペットボトル・牛乳パックなどを遊びで活用した。遊んだ後は、資源ごみとして分別したり、回収団体に出したりした。	通年	全園児職員 全園児 職員	
○ 節水	○ 生ゴミの減量を行うとともに給食の食べ残しが少なくなるように指導した。		全園児 職員	
○ 節水	○ コップ1杯の水での歯磨き運動を実施し、子どもたちが意識して水を大切に使えるよう指導した。 ○ 遊びで使った水を植物の水やりに使用した。 ○ メーターを記録し漏水の発生を抑えた。		全園児 職員 職員	
成 果				
<p>○ 年間を通して、緑あふれる環境づくりに努め、保護者の協力を得て、サツマイモやダイコンの栽培・世話を体験することができた。また、季節に応じた野菜や果物の栽培などを通して、自然環境の大切さに気づいたり、環境で優しい生活について考えたりする気持ちが育ってきた。</p> <p>○ コップ1杯の水での歯磨きが定着してきた。砂場遊びや色水遊びなどで使った水の残りを栽培物や樹木の水やりに使った。生活のなかで水を大切に使うという様子が見られるようになった。</p> <p>○ 家庭から持ってきた空き箱を集めてきた自然物を遊びで使うなど、資源を大切にしようとする気持ちが育ってきている。</p> <p>○ 職員が自然や資源を大切にする事で、子どもたちの意識も変わってきている。また、年長児がよい見本となり、年少児に伝えている姿もみられる。</p> <p>○ 土のリサイクル活動を通して、新しい土の購入が減少し、その分を環境で優しい肥料購入にあてることができた。</p>				
次期計画への課題・問題点				
<p>○ 紙芝居や絵本を通して、環境問題を具体的に知らせると共に、より身近に感じて取り組んでいけるように工夫する。</p> <p>○ 水を大切に使っている幼児の姿がよく見られるようになってきた。しかし、水の出過ぎや閉め忘れに気づかないこともあった。一人ひとりが水の大切さに気づき意識して使えるように引き続き指導を続けたい。</p> <p>○ 電気の利用については、職員間で話し合い共通理解のもと節電で努めるようにする。</p> <p>○ 活動が幼児の主体性を生かしたものにできるように、指導や援助を工夫したり、今後の活動内容の改善につなげていく。</p> <p>○ 保護者や地域の方々への啓発を積極的に行い、家庭と連携しながら子どもたちの資源や自然を大切にする心を育てていきたい。</p>				

園独自の特色ある活動

「サツマイモ・ダイコンの栽培活動・食育への取り組み」

1 ねらい

- 地域の特産物であるサツマイモ・ダイコンの栽培を通して、身近な草花や野菜に興味を持つ。
- 保護者の方から育て方を学びながら、苗植え・水やり・収穫等を経験することで、自然を大切に作る心を育てる。

2 計画

項目	実施内容	実施時期	備考
芋苗植え	・一人ずつ芋苗植えをする。	5月17日	本部役員・施設委員
芋掘り	・芋掘りを経験する。 ・家庭へ持ち帰る。	10月5日	1年生・園児・職員 本部役員・施設委員
畑の整地うね作り		10月9日	1年生・園児・職員 施設委員長
ダイコンの種まき	・2粒ずつダイコンの種をまく。	10月10日	施設委員長 園児・職員
製作	・イモのツルを使って、リース作りをする。	11月2日	保護者・園児・職員
クッキング	・1年生と一緒に焼きイモパーティーをする。	11月15日	1年生・園児・職員
	・誕生会でスウィートポテト作りをする。	11月28日	園児・職員
ダイコンの収穫	・ダイコンの収穫をする。 ・家庭へ持ち帰る。	2月	本部役員・施設委員 園児・職員

## サツマイモの栽培・食育の活動



芋苗植えや芋掘りは、施設委員の方達が手伝ってくださり、いろいろなことを教わった。一年生とも一緒に掘ったり、ツルを使ってリースを作ったりした。自然物を大切に扱う姿が見られた。



幼稚園で収穫したイモを焼き芋やスイートポテトにさせていただく。自分たちで収穫したイモは、甘くておいしく、残さず食べていた。



イモのツルを使ってお家の人と一緒にリース作りをした。廃材や自然物の利用を心がけた。

## ダイコンの栽培の活動



施設委員長さんから大根の生長過程について話を聞いたあと、小さい種を落とさないように気をつけて、種をまいた。来年の収穫を楽しみに世話を続けている。

## 活動内容



玄関に、環境問題への取り組みや、水道電気使用量のグラフを掲示し、保護者・地域の人達への啓発や職員の意識の高揚に努めている。



ゴーヤの栽培活動を通して、食育や暑さ対策に取り組んだ。ゴーヤは、家庭へ持ち帰った。



節水や節電について表示し、コップ1杯のはみがきや水を止めての手洗い・こまめに電気を消すことなどに努めている。年長児や教師の姿勢がよい手本となっている。



ごみの分別についてわかりやすいように、ごみ箱に絵や文字を貼り、話し合いをした。ごみを捨てる時には、幼児自身が分別を意識して捨てるようになった。



なると環境スクール活動報告書

学校（園）名		鳴門市鳴門東幼稚園		
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○ 花や環境の美しさを感じる。	○ 園外保育や遠足に行き、道端や花壇の花・紅葉などの美しさを見たり、公園や施設をきれいに使ったりした。	5～11月	全学年	
	○ プランターや植木鉢に花や球根を植え、栽培活動をとおして花の美しさや育てる楽しさを感じた。	5～12月		
○ 食物を大切にす る。	○ 竜宮の磯に行き、砂浜で遊んだ。	6月	全学年	
	○ キュウリ・ナス・ピーマン・ミニトマトを植え、育てた。	5月		
	○ さつまいもの苗を植え、育てた。	6月		
	○ キュウリやミニトマトなどの夏野菜を収穫し、幼稚園で友達と食べたり、家に持ち帰って家族と食べたりした。	6～11月 6～7月		
	○ ブロッコリー・らっきょうを植えた。	9～10月		
	○ さつまいもの収穫をし、つるでリースを作った。	10月		
○ 清掃をする。	○ 収穫したさつまいもを小学生と一緒に販売し、焼き芋にいただいた。	12月	全学年	
	○ 「リフレッシュ瀬戸内」で、小学生とともに竜宮の磯に出かけ、地域の方々と一緒に海岸清掃をした。	5月		
○ 節水する。	○ 園庭のゴミや草・枯れ葉などを拾い、美化に努めた。	通 年	全学年	
	○ 歯磨きやうがいをする時には、水を止めてするようにし、水を出し過ぎないようにした。園全体で1%水道使用量を減らすよう努力をした。	通 年		
○ 節電する。	○ 砂遊びの後、道具を洗った水をバケツで花や野菜にやり、有効に利用した。	通 年	全学年	
	○ 使用しない時には、保育室・廊下・玄関等の電気を消すようにした。園全体で1%電気使用量を減らす努力をした。	通 年		
○ ゴみの分別をする。	○ 燃やせるゴミ・燃やせないゴミ・プラスチックのゴミと分けて捨てている。	通 年	全学年	
成 果				

○ 地域散策や園外保育を定期的に計画して出かけたり、10月には小学生と一緒に、バスで須磨海浜水族園へ遠足に行ったりした。公園や施設の使い方を知らせ、きれいに気持ちよく使用した。途中で出会った方や施設のお世話をしてくださった方にあいさつをしたり、ごみを拾ったりして帰ってきた。

季節の花や紅葉した木々を見たり、どんぐりや木の実を拾ったりして自然にふれた。公共の施設を使うマナーを学ぶとともに、自然を含めた環境にふれ、美しさや驚きなどを感じたようである。また、自分で植えた植物の世話をすることで、大きく成長したり、花が咲いたりすることに喜びを感じている。

○ 食物を植え育て、収穫し、それを食べたり販売したりすることで、自分が育てた野菜に愛着をもち、大事にしようという気持ちが芽生えた。食に対して前向きな姿勢が見られるようになり、保護者も喜んでいた。

○ 常に自分たちが生活しているところをきれいにすると気持ちがよいことを意識づけることで、子どもたち自身から「きれいにしよう」という気持ちが出てきて、自主的に清掃するようになってきている。また、「リフレッシュ瀬戸内」でも地域の海岸の清掃をすることで、自分たちの力できれいになるという経験をしている。

○ 節水・節電については、「もったいない」という気持ちをもつようになってきた。ゴミの分別に関しては、「これは燃えるゴミかな？」と分別を意識する言葉が聞かれるようになった。

#### 次期計画への課題・問題点

○ 子どもたちが栽培しやすく、収穫の喜びをより感じられるような野菜を選び、食物に興味や関心をもてるようにする。

○ 環境紙芝居や絵本などをおして、子どもたちがエコに関してより興味や関心をもてるようにする。

○ 節水・節電・ゴミの分別は継続してよりいっそう取り組み、使用量を減らしていく。

## なると環境スクール活動実施状況報告書

### 活動内容報告

#### 1 花や環境の美しさを感じる。

園外保育や遠足に行き、道端や花壇の花・紅葉などの美しさを見たり、公園や施設をきれいに使いゴミを拾ったりし、公共の施設を使うマナーを学ぶとともに、美しさを感じる感性を養うことにつなげた。



#### 2 食物や花を大切にする。

キュウリ・ミニトマト・ピーマン・ナス・サツマイモ・ブロッコリーなどを植え、収穫を楽しみにしたり、一人一鉢の花を育て、成長を喜んだりした。植物を育てていくことにより、命の大切さを知ることができ、責任感や充実感も養われ、大切にしようという気持ちを育てることにつなげることができた。



#### 3 清掃をする。

5月31日、小学生と一緒に竜宮の磯に出かけ、市役所や地域の方とともに海岸の清掃を行った。海岸で清掃の仕方や環境を守ることの大切さについての話を聞いた後、教師とともに清掃活動に取り組んだ。また、日常の幼稚園生活で、教師が保育室や園庭を清掃しているのを見たり、教師とともに清掃したりするなかで、生活する場をきれいにしようとする意識が芽生え、自らゴミや草・枯れ葉などを集め、清掃するようになってきている。



#### 4 節水をする。

手洗い場・トイレ付近に「みずをたいせつにしましょう」「だしっぱなしはやめましょう」「みずがでていないかたしかめましょう」などの表示を貼ったり、手洗いや歯磨き・うがいをする時には水を止めてするように、常に声をかけたりしてきた。また、水を出し過ぎないように注意を促してきた。子どもたちも意識するようになっている。

また、水道使用量を記録し、保育室の前に掲示することで保護者にも意識してもらっている。



#### 5 節電をする。

保育室や廊下、リズム室など、使っていない部屋の電気を教師がこまめに消したり、子どもたちが自分で電気を消したりすることで、節電意識を高めている。



#### 6 ゴミの分別をする。

ゴミの分別について、子どもたちがわかりやすいようにゴミ箱に絵や文字を貼り、どのように分別をすればよいのか話し合いをすることで、自分で意識してゴミの分別が出来るようにした。



なると環境スクール活動報告書

学校（園）名	鳴門市成稔幼稚園			
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○ 活動説明	○ 視覚を通して、ゴミの分別や水の使い方、電気の節約について知らせた。	4月	全園	
○ ゴミのリサイクル	○ 燃やせるゴミやプラスチックなど、ゴミの分別を行った。	通年	全園	
	○ PTA活動の資源ゴミ回収に参加し、保護者とともに地域の資源ゴミ整理をした。	年4回	職員	
	○ 園内の資源ゴミを地域の資源ゴミステーションに分別した。			
○ 緑化	○ 花の苗や球根を植えて育てた。	通年	職員	
○ ものを大切にす る（紙、廃材な ど）	○ 耐震工事に伴う部屋の移動の際には、棚や素材等を、子どもたちが分かりやすく使いやすいものになるよう、配置や仕分け方を見直した。	8月	職員	
	○ 給食時のデザート用の容器や家から持ってきた廃材を製作に活用した。	通年	全園	
	○ まだ使えそうな紙などは、分別して再利用するよう指導した。	通年	全園	
○ クリーン活動	○ 園庭の除草や清掃を行った。	通年	全園	
○ 節電	○ ゴーヤを植えて陰をつくり、室内温度の上昇を抑えた。	6月～9月	全園	
	○ 必要な箇所の照明を使うようにしたり、部屋を離れる時には照明器具を消すようにしたりするなど節電を心がけている。	通年	全園	
○ 節水	○ 手洗いやうがい、歯磨きの時など、水を出しっぱなしにせず、水道の栓をこまめに閉めるよう表示したり指導したりした。	通年	全園	
	○ 雑巾を使用する時は、バケツを利用し、節水に努めた。	通年	全園	
	○ 職員の出勤時に水道の元栓を開け、退庁時には閉めて帰ることを徹底して、漏水の発生を防いだ。	通年	職員	
	○ 遊びに使った水をすぐ捨てずに花や植木の水やりに使用した。	通年	全園	
○ ベルマーク 回収	○ PTA活動のベルマーク回収に参加しており、牛乳パックやインク等の回収を実施している。	年3回	全園	

## 成 果

- ・ ゴミの分別や素材の分類を子どもたちにわかりやすいように絵や文字で表示することで、子どもたちも自分たちで意識して「これもったいないなあ。」「先生、これってまだ使える？」と考えて、片付けたりゴミを捨てたりする姿が見られた。
- ・ 耐震工事に伴い、使用できる保育室や倉庫が少なくなり、用具や素材を今までと同じように置いたり片付けたりすることが難しくなったが、部屋の配置を職員で検討し直し、カップやペットボトル・新聞などの素材置き場を確保し、幼児が自分で廃材を選んだり主体的に製作活動に取り組んだりできるよう環境を整えた。また、幼稚園で、ものを大切に、水や紙などの資源の大切さを伝えることで、園で使用するために家庭で廃材を集めて持参する幼児が増えた。
- ・ 遊びのなかでパンジーや千日紅・どんぐりなど、さまざまな自然物を活用して遊ぶ楽しさを経験し、子どもたちの身近にある自然や資源を大切にしようとする気持ちを育てることにつながった。

## 次期計画への課題・問題点

- ・ 本園の保護者や地域の方の協力により、資源ゴミ回収等は大変充実している。幼稚園でも資源や環境を大切にしている心が育つよう努力しているが、一部の保護者の中には意識が薄い人も見られるので、保護者への啓発を工夫し、意識高揚を図っていく必要がある。
- ・ 冷暖房の設定温度を考慮しながら、園児が健康で快適に生活できる環境づくりとともに、節電・節水を意識した生活を心がけたい。
- ・ 廃材や自然物を利用した遊びを充実させ、また、子どもたちのものを大切にする心や考え方を育てていくために、職員間で知恵を出し合い取り組みを進めていきたい。
- ・ 電気使用量と水道使用量の掲示ができていないので、早急に取り組みたい。

## 実施状況報告書



### 【緑のカーテン】(ゴーヤ)

ゴーヤの苗を植え、今年度も地域の方にご協力いただいて、立派なゴーヤ棚が出来ました。



### 【素材置き場の分類】

素材置き場の整理をし、子どもたちが遊びに使いやすいよう整理しました。廃材の特徴を生かしたり工夫したりしながら、作ることを楽しんでいます。



### 【節水の表示】(「おみずのだしっぱなし もったいない もったいない」)

子どもたちも「もったいないばあさんがくるよ。」と互いに声を掛け合って、節水を心がけています。



### 【命のリレー】

年長児が育てて掘りおこしていたチューリップの球根をプレゼントしました。

なると環境スクール活動報告書

学校(園)名		鳴門市明神幼稚園		
活動実績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○物を大切にする	○ 色紙・画用紙など、捨てる前に「まだ使えるかな?」と考えるようにした。 (別紙 写真①)	通 年	全園児	
○ゴミのリサイクル	○ 給食後、食器に食物が多量に付着したまま片づけないように指導した。 ○ 燃やせるゴミ・燃えないゴミ・プラスチックゴミの分別を心がけた。 (別紙 写真②) ○ 環境を守るマークに関心をもつようにした。 ○ 家庭で出たペットボトル・空容器・広告等を遊びで再利用した。 (別紙 写真③) ○ 遊び終わったペットボトルは、地域のゴミステーションに持っていった。 ○ ミスプリント用紙をメモ用紙に活用した。	通 年	全園児 全職員 全園児 全職員	
○節電	○ 使っていない場所の電気を消したり、こまめにスイッチを切ったりすることを心がけ、節電に努めた。 (別紙 写真④) ○ 電気使用量のグラフに赤色の矢印を付け、その月の使用量を意識するようにした。 (水使用量も同様)	通 年	全職員 全園児	
○節水	○ 手洗い・うがいや歯みがきの際、必要のない時には水を止めるようにし、節水に努めた。(別紙 写真⑤)	通 年	全職員 全園児	
○美化に努める	○ 園庭の草抜きをしたり、落ち葉を拾ったりして美化に努めた。 (別紙 写真⑥)	通 年	全職員 全園児	

## 成 果

- 今年も「なると環境スクール活動」に全園児・全職員で取り組んだ。水・電気・素材等に対し「もったいない」という意識や自然を大切にする思いが育つよう取り組みを続けているが、この実践活動をきっかけに環境に対する意識がさらに高まってきている。
- リサイクルできるものや分別について話し合うことで、園児が分別することの大切さを知り、どのゴミ箱に捨てるものか考えながら分別するようになった。
- 食べ終わった食器に食べ残しが付いたまま片づけるのではなく、付着しているときは『集まれ』しよう（残った米飯や小さく切られた副食を集めてから食べる。）」と言ってきれいに食べてから片づけようとする気持ちももてるようになった。
- 園庭の草抜きや落ち葉拾い等をするなかで、きれいになった場所で遊ぶ楽しさを感じ、すすんで取り組もうとする幼児が増えてきている。

## 次 期 計 画 へ の 課 題 ・ 問 題 点

- 一人ひとりの意識が成果につながるということが取り組みを通して、だんだんと明らかになってきている。これからも、園舎内外の環境調査をして、表示・掲示等の工夫をしたり、保育活動に具体的に取り入れたりして実践していきたい。
- リサイクルや分別の大切さはわかっているが、全員の幼児が全ての場でできているとは言えない。そのため、どんな時でも全ての幼児が自分で考えながら実行できるようにしていきたい。
- 食べ終わった食器に食べ残しが付いていない方がよい、ということはわかっているが、実行できにくい園児もいるため、全員がきれいに食べられるように引き続き指導していきたい。
- 地域のゴミ拾いやオリエンテーリングを行うことができなかったため、次年度は計画的に行えるようにしていきたい。
- 環境学習は家庭生活・地域住民とも大きなかかわりがある。そのために、家庭教育学級での環境学習も必要と思われるので、親子で学習したり地域に働きかけたりして学ぶ機会も必要である。

## 活 動 内 容



① 捨てる前に「まだ使えるかな?」と考えるようにした。



② 燃やせるゴミ・燃えないゴミ・プラスチックゴミの分別を心がけた。



③ 家庭で出たペットボトルや空容器・広告紙等を遊びに再利用した。



③ 使っていない部屋の電気を消したり、こまめにスイッチを切ったりした。



⑤ 歯みがきやうがいの時, 必要のない時には水を止めるようにした。



⑥ 園庭や園周辺の落ち葉を拾ったり, ほうきではいたりして清掃をした。

なると環境スクール活動報告書

学校（園）名		大津西幼稚園		
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
活動方針の説明	○ 各クラスにおいて、活動方針について話し合った。 ・ 自分たちでできる「資源を大切にできる」ことについて話し合った。	4月	園児・教師	
ごみの分別・減量	○ 燃やせるごみ・プラスチック・燃やせないごみの分別をした。 ・ よくわかるように文字やイラストで表示した。 ・ 捨てる前に「まだ、使えないかな？」と考えたり、用途によっては小さい紙を使ったり出来るよう声かけを行った。	通年	園児・教師	
節電 節水	○ 使用していない部屋やトイレなど、こまめに電気を消すようにしたり、幼児の体調や気温に応じてエアコンを調節したりした。また、歯磨きやうがいの時など、水を出しっぱなしにしないよう掲示や声かけを行ったり、砂場遊びなどに使った水で水やりをしたりすることで、節電・節水に努めた。	通年	園児・教師	



<p>栽培活動</p>	<p>○ 一人一鉢でミニトマト・二十日だいこん，菜園でトマト・きゅうり・ピーマン・ナス・オクラ・さつまいも・ブロッコリーなど，四季に応じた野菜を栽培した。毎日世話をし，みんなで収穫したり食べたりすることで，身近な自然に関心をもち取り組むことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べ物が自分の体の中でどのような力になるのかを知る機会となった。</li> </ul>	<p>通年</p>	<p>園児・教師</p>
<p>暑さ対策</p>	<p>○ さつまいもの収穫後，つるを利用してリース作りをした。</p> <p>○ ゴーヤやアサガオを育て，緑のカーテンを作った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーテンの陰では，日向より涼しく感じられることに気づき，自然物を使った省エネの大切さを知った。</li> </ul>	<p>12月</p> <p>7月・8月</p>	<p>園児</p> <p>園児・教師</p>



<p>寒さに負けない体作り</p>	<p>○ マラソン（10分間）・なわとび・ドッジボール・ホッピングなど、寒さに負けない体作りを行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p>11月～ （継続中）</p>	<p>園児・教師</p>	
-------------------	---	-----------------------	--------------	--

成 果

- 保育室を使っていない時には電気のスイッチを消したり、室内の明るさにより点灯個所を調節したりなど、こまめに電気を消すことが習慣になってきた。また、水道の栓がきちんと閉まっていないことに気づいた幼児がきちんと閉めなおすなど、節電・節水の意識が高まってきている。
- 集めてきた素材や自然物を大切に遊びに使ったり、小さな紙も無駄にせず使おうとしたりするなど、資源を大切にしようとする気持ちが育ってきている。
- 季節に応じた野菜や果物の栽培などの体験活動をとおして、自然に興味や関心をもつことで、自然環境の大切さに気づいたり、環境に優しい生活について考えたりする一端となった。

次期計画への課題・問題点

- “資源を大切にしよう”とする教師の姿勢が、子どもたちに大きな影響を与えるということを実感した。引き続き、教師自身がしっかりと資源についての知識をもち、限りある資源の無駄づかいを防ぐということを意識しながら取り組んでいきたい。
- 園だよりやクラスだより、参観日やオリエンテーリングなどの機会を利用して、園での取り組みを伝えていくとともに、家庭へとつながっていくように配慮していきたい。
- 活動が幼児の主体性を生かしたものになるように、指導や援助を工夫し、今後の活動内容の改善に努めていきたい。

なると環境スクール活動報告書

学校（園）名		堀江北幼稚園			
活 動 実 績					
項目	実施内容	時期	対象	備考	
○ ゴミの リサイクル	○ 保育室やリズム室のゴミ箱等に、ゴミの分別について幼児がわかりやすいように絵や文字の表示をし、どのゴミ箱に入れるのかを自分で考えるようにするとともに、各学級において活動方針について具体的に説明をした。	通年	全園児 職員		
	○ 月1回の小学校との交流『あまがつ活動』を利用し、小学生に教えてもらいながら園児が園庭の除草やゴミ拾いを行った。	通年	全園児 職員		
					
	○ 新聞紙や広告、牛乳パックや空き箱などを園に持って来てもらえるように保護者に呼びかけ、遊びに利用した。	通年	全園児 職員		
	○ 空き缶やペットボトル、ダンボールや古紙等は、地域や業者の廃品回収を利用した。	通年	全園児 職員		
	○ 落ち葉を園庭の隅や木の周りに集め、腐葉土にしたり虫の住み処にしたりして利用した。	通年	全園児 職員		
	○ 大麻学校給食センターを見学し、実際に調理をしているところを見たり、栄養士さんから話を聞いたりした。「みんなが残さず食べてくれると嬉しい。」という話を聞き、作ったり運んだりしてくださる人に感謝の気持ちをもって残さず食べようとする幼児が増えた。	12月	全園児 職員		
					

○緑のカーテン	○ ゴーヤの苗を職員室窓際に植え、日除けになるようにした。	5～ 9月	全園児 職員	
○節水	○ 地域の人や小学生に教えてもらいながらサツマイモの苗植えや収穫を楽しんだ。収穫後のツルを使ってクリスマスリースを作った。			
	○ 砂場道具、色水遊びの道具の片付けは、タライに水を溜めて洗うようにした。後の水は、植木や菜園の水やりに利用した。	通年	全園児 職員	
○節電	○ 水道使用後は水道の栓をしっかりと閉めるように指導した。	通年	全園児 職員	
	○ 園児が戸外へ出たときなど、保育室やリズム室の電気のスイッチを切るようにして節電を心がけた。			
	○ 縄跳びやマラソンなど、体を動かす遊びを通して体全体を温めたり衣服の調節をしたりして、灯油や暖房の節約を心がけた。	12月 ～	全園児 職員	

#### 成 果

- 遊んだ後に、教師と一緒にゴミの分別をしながら片付けることで「まだ使えるから置いておこう」「捨てるのもったいない」と園児自身が考えて分別するようになってきた。
- 自分たちで野菜を育てたり、給食センターの人とかかわったりしたことで、食べ物への興味関心が高まってきた。給食を残さず食べようとする意識につながっている。
- 家庭から空き箱やダンボールなどを持って来て遊びに使うことで、様々な物が再利用できることがわかり、何でも大切にしようとする気持ちが育ちつつある。

#### 次期計画への課題・問題点

- 今年度は主に幼稚園だけで取り組んできたが、次年度はオリエンテーリングを活用して、保護者と一緒に地域のゴミ拾いをするという活動を取り入れ、保護者にも啓発をしていきたい。

## 平成29年なると環境スクール活動報告書

学校（園）名	鳴門市堀江南幼稚園			
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○ 幼稚園周辺のゴミ拾い	○ 毎月、20日の学校安全の日に、幼稚園周辺のゴミ拾いをした。	通年	全園児 職員	
○ ゴミの再利用	○ 空き箱や空容器、ペットボトルなどを遊びの中で使い、再利用につなげた。	通年	全園児 職員	
○ 節水	○ 砂場の道具を洗った後の水を花壇や菜園の水やりに活用した。	通年	全園児 職員	
○ 節電 (栽培活動)	○ 手洗い場に「みずをたいせつに」と掲示し、園児が自ら気付いて行えるようにした。	通年	全園児 職員	
○ 節電 (栽培活動)	○ 園児がゴーヤを育てることで、保育室や廊下が過ごしやすい環境になることなど、エコに対する関心を高め、実践につなげた。	通年	全園児 職員	
○ 節電 (栽培活動)	○ 園舎内電気のスイッチをこまめに切ることを心掛けた。	通年	全園児 職員	
○ 節電 (栽培活動)	○ 夏は、園庭の木陰等を利用して活動し、エアコンの利用を少なくした。	通年	全園児 職員	
○ 腐葉土づくり	○ 冬は、運動遊びを多くすることで体力づくりを兼ねた暖房機器の節電に努めた。	通年	全園児 職員	
	○ 園庭の木々の枯れ葉を使ってどんぐりひろばで腐葉土を作り、花や菜園の土に活用した。	通年	全園児 職員	
成 果				
○ 子どもたちに水を出し過ぎないように指導していったところ、友達同士で声を掛け合う姿が見られるなど、意識改善につながった。				
○ 園内の自然環境を生かした遊びや、廃材を使った遊びを提示する中で、ものや自然を大切にしようとする姿が見られるようになった。				
○ 冬の給食後のひとときでは、暖房機器に頼るだけでなく、子どもたち自身が日向を見つけて快適に過ごそうとする様子も見られた。				
次期計画への課題・問題点				
○ 晴れた日は、室内の電気を消したり戸外の活動を多くしたりして、更に節電に努める。				
○ 腐葉土の活用で栽培活動が十分出来たので、次年度も続けていく。				
○ 1年間を通して栽培活動（食育を含む）を積極的に行っているため、水道使用量に関しては、節水に限界がきているように思われる。				

## 実施状況報告書

- 園庭の木々の枯れ葉を活用して遊びを展開したり、どんぐりひろばで腐葉土を作り、花や野菜を育てたりした。



- 手洗い場や保育室に、節水や節電を呼びかける掲示をしたり、砂場道具を洗うときにはたらいに水をためて洗ったりするなど、幼児でもできる方法で自ら行おうとする態度や意識を育てる。



- ゴーヤを育て部屋の室温を下げるとともに、収穫の喜びも味わう。



- 夏には木陰を利用して休息したり、冬には日向を見つけ遊んだり、遊びや生活の中で、自分たちでできる生活の工夫・季節に応じた過ごし方が、自然に経験できるように、保育の工夫をしてきた。



なると環境スクール活動報告書

学校（園）名	板東幼稚園			
活 動 実 績				
項目	実施内容	時期	対象	備考
○ 活動方針の説明	○ 職員会で活動方針について具体的に話し合い、各学級で説明を行った。	5月	全園児 職員	
○ 取組みや行動項目の掲示	○ 取組みや本年度の行動項目を掲示し教師の意識を高めるとともに、保護者へ活動について周知を行った。	通年	全園児 職員 保護者	
	○ 収穫したピーナッツの殻や藤のつる、落ち葉など、身の回りにある様々なものを教材として活用した。  	通年	前園児 職員	
○ ゴミのリサイクル	○ 幼児とゴミの分別について話し合いをし、分別する意味を知らせた。また、絵本や紙芝居を読み、園児の「もったいない」という気持ちを育む指導を行った。		全園児 職員	
○ 緑化活動	○ ゴーヤやアサガオなどを育て、夏の光を遮り、室内温度の上昇を抑えた。	7月	園児 職員	
	○ 園外保育で拾ってきたドングリを育て、園庭に植える計画を立てた。	10月		

○ 園周辺の環境を生かして	○ 園外保育に出かけ、ドイツ館で「第九」「うまれた町ふるさと」を歌ったり、一番札所にお接待に行き、自分たちの住んでいる町を大切にしようとする気持ちを育んだ。 ○ 地域を散策しながら、豊かな自然を感じると共に、木の実・木の葉を拾い、拾ったものを遊びに活用した。	5月 10月 11月	全園児 職員	
○ 節電・節水	○ 不要な照明は消すように心がけた。消し忘れている場合は、気づいた職員が消すなどし、節電した。 ○ 無駄な水を使わないように、水道の蛇口がきちんと締まっているか確認した。砂場や色水遊びで使用した水で水やりをした。	通年	全園児 職員	
○清掃活動	○ 園庭の草抜きや落ち葉・枯れ枝拾いをした。落ち葉は堆肥作りに使用し栽培に使い、枯れ枝は遊びに使用した。	10月 11月 12月	全園児 職員	

### 成 果

- 職員は、節水・節電を常に心がけるという意識をもち、実践することができた。職員の姿が手本となり、幼児の節水・節電の意識が高まりつつある。
- 子どもたちなりに「もったいない」という気持ちをもち、捨てる物の中から使用可能な素材を探すなど、物を大切にしようしたり、可能な限り給食を残さず食べようとしたりするようになってきた。
- 自然の不思議さや美しさに気づいたり、ゴミのリサイクルでの遊びの面白さ等について身体を通して感じたり体験したりすることができた。
- 園外保育で、お寺や公園などの地域散策をしたことで、身近な自然に触れ、自分たちの住む町や地域に興味をもち、自然の不思議さや美しさに気づいた。自分の住む町を大切にきれいにしようという意識が芽生え始めている。

### 次期計画への課題・問題点

- 幼稚園教育では、身の回りにある様々な物を教材として活用することができる。幼児の気づきや発見に応じた教材を工夫するなど、教師自身の環境教育に対する意識をより高めなければならない。
- 園だよりや保育参観等を通して幼稚園での環境スクールでの取り組みを知らせ、幼児期からの環境教育を実施していく大切さを発信する必要がある。幼児の環境教育が深まるよう、家庭でも取り組めることなどを知らせたり、オリエンテーリング等で保護者と一緒にゴミを拾ったりするなど、家庭と連携しつつ進めていきたい。
- 夏の暑さや冬の寒さが厳しい時は、園児・職員の体調を重視するため、節電・節水はできにくい。園児・職員の体調管理を一番に考え、生活の中の節電・節水が無意識に実行できるような活動を工夫していきたい。